第１分科会

子育て・教育

助言者　野間 玲さん(元新座市内小学校教員)

司　会　久米 宏樹さん







第一分科会　子育て・教育

第一分科会で報告された子育て・教育について、特に学校をめぐる問題点について簡単に報告させていただきます。

野火止 6 丁目　杉田房子

初めに自己紹介を行った。参加者は 23 名（うち 2 名は司会と助言者）。現役の先生、子育て中のおかあさんもいたが多くは子育てを終えた年齢の方たちだった。

現役の先生から平和教育への取り組みについて報告があった。
沖縄戦については、沖縄慰霊の日（6/23）のテレビ視聴、原爆が投下された広島・長崎については、ノーベル平和賞受賞の新座市在住の田中熙巳さんを絡めて話し、被ばくクスノキ 2 世が新座にあることなども話した。
「ちいちゃんのかげおくり」、「ぞうれっしゃがやってきた」などの読み聞かせもした。「ぞうれっしゃがやってきた」では合唱曲も流した。
夏休みには「自分が平和のためにできること」を考えてもらった。平和発表会では「火垂るの墓」を見た。

「学級通信」廃止の流れも報告された。学校によっては配布しているところもある。タブレットでの配信のところもある。

配布物についてはペーパーレスの流れが様々なところに波及している。

総合学習で行っていた職場体験がコロナで中止後、再開できない学校がある。多数の生徒を受け入れる企業側の負担、先生の企業との交渉などの事務的負担も大変である。

コロナ禍で子どもたちの集団活動が制限され、子どもは集団での活動ができなかった。
集団活動を規制された子どもの生活に困難が生じていた。
コロナ後も協同で活動することがなおざりになっている。
教え合うよりタブレットで調べるようになっている。わからないことはタブレットで答えてもいいという学校もある。

出欠は C4th（校務支援システム）で行われ、連絡なども含め保護者は先生との直接的なコミュニケーションがとりづらくなっている。

PTA がなくなってきている。学童も同様に親の会がなくなってきている。
懇談会も話し合う場ではない。
親同士が語り合う場がない。

宿題は紙ではなくタブレット（キュビナ）での提出になっている。Ｗｉ-Ｆｉのない学童ではタブレットは使えない。特に夏休みなどの長期の休みには困ってしまう。Ｗｉ-Ｆｉのない家庭も同様である。

先生の「働きかた改革」で勤務時間に制限があるが、仕事は終わらない。

不登校も増えている。小学校 1、2 年生の不登校の増加。いじめも増えている。

など、様々な問題点や懸念事項が出ていた。

今回は、全体会の記念講演の演題が「ひとり 1 台タブレット～どこから来たの？！子どもたちをどこへつれていのくの？！」（中央学院大学准教授　谷口聡さん）だったので、ICT 教育に関心をもってくれたおかあさんの参加があったように感じた。

学校と直接かかわりのなくなった世代には、驚きの報告もあったと思われる。

未曽有のコロナ禍による行動制限で生じた集団活動の自粛、子どもたち相互のかかわりの制限の影響、協同学習の減少、タブレットによる個人学習の推進、などが子どもたちの成長にどのようにかかわるのかが懸念される。

学校の ICT 教育推進によるシステムの変更は、「教育とは」「学校とは」が改めて問い直されるものなのではと思われた。

以上



